

令和3年度 第2回 会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 要旨

日時：令和3年10月28日（木）15：30～17：00

場所：生涯学習総合センター（會津稽古堂）研修室1

1 開会（司会：観光商工部商工課 田沼）

2 未来会議の運営等について（観光商工部商工課長 長谷川）

・座長の変更について

これまで学識経験者として座長をお勤め頂いた青木先生が、会津大学を離れ、宮城にご転任されたことから、座長を商工会議所の吉田課長に引き継いでいただくこととなった。なお、座長は退任されたが、青木先生には引き続き会議のコアメンバーとしてご参加いただく。

・地域の状況の共有について

未来会議では、現在の地域や経済の状況を共有することが大事と考え、毎回、会議冒頭に情報共有を行ってきた。限られた時間の中で、情報共有を、より有効的なものとするため、今回より事前に聞き取り等を行わせていただき、メモを作成した。今後もメモを事前に作成させていただき、情報共有を図っていききたい。

・代理出席等について

未来会議の日程については、座長の予定を中心に会議室の状況等も加味し、開催日を設定させていただいた。必ずご参加いただくのは、様々な事情から困難な部分もあると重々承知しているが、継続して参加いただくことで、会議の場で生まれる意見などもあると思う。ご自身の出席が困難な場合には、代理の方の出席をご検討いただきたい。また、代理の方の出席も難しい場合には、事務局にて、事前に聞き取った情報を皆様に共有させていただき、ご協力いただきたい。

3 協議

- ・会津若松商工会議所吉田課長が座長となり進行

（発言要旨）（※新型コロナウイルス感染症をコロナと表記）

【情報共有】

■最近の経済状況について

- ・9月末の福島県非常事態宣言解除に伴い、イベントや地域の活動といった取り組み、経済活動についても活発化してきている。
- ・しかし、第6波の懸念を抱いている事業者が多く、これからの新型コロナウイルス感染症の動向は、やはり気になるところ。
- ・経済活動が活発化していきているとはいえ、特に飲食店や観光業においては、時短要請や県外への移動の自粛などの期間が長く、疲弊している企業が多いように感じられる。コロナ前水準に戻るには、まだまだトンネルは長いと思う。
- ・今後は新しい生活様式「ニューノーマル」を継続していくことになるため、経済を元に戻すにはかなりの時間を要すると予測される。

- ・具体的な概況として、建設業は民間工事が持ち直すものの、コロナによって木材・鉄鋼などの資材価格が上昇している。製造関係は東南アジア等からの部材調達難に伴い生産調整が続いている。卸売業は天候不順により農産物が価格高騰、サービス業はデジタル投資によりソフトウェア関係が堅調だが、飲食関係がコロナによる営業制限が続いており、全体的には業況感とも悪化のままである。
 - ・一方で、この機会に先を見越し、思い切って設備投資を考えるとという方も居る。
 - ・創業の機運も少しずつ高まっている。
 - ・今後は、コロナ後を見据えた業態や業務運営を考えていくことが重要（例えば：旅行業界では少人数のツアーへの対応など）。そのために、国の事業再構築補助金※を活用する方策もある。
- ※事業再構築補助金については別紙資料参照

■直近の活動や状況について

- ・会津短大では、8/28（土）に大町通りと中央公園を使って、集中（フリマ、風車組立体験）、分散（スタンプラリー）、導線（風鈴、竹ランタン）の戦略で歩き体験の効果を測る実証イベントを開催した。ビデオカメラを使った定点調査により、9/4と歩行者数を比較したところ、女性や子育て世代の増加が確認された。
- ・同日、PanasonicさんもGPSデータを使った実証に取り組んでおり、可能であれば12月に再度実証イベントを開催したいと考えている。
- ・会津大学でも8月にビューティカレッジ跡地を使って創造力開発スタジオという演習を行った。日大工学部生など市外からも参加があり、このような学生が気軽に集まれる場が駅前にあればいいという声が多く聞かれた。
- ・会津青年会議所は、創立70周年を迎えた。9月下旬には、記念式典を開催し、福島県内限定ではあったが、多くの来賓にご臨席賜ることができた。
- ・70周年記念事業として、地域の子どもたちを対象に「会津の宝探し」として地域の魅力のスポットを回っていただくウォークラリーを開催した。小さい子を持つ家庭からは、コロナ禍でなかなか遊びに連れ出せないという状況の中で、久しぶりに楽しく過ごせたと好評であった。
- ・地域の人にとっても、外に出ることができない、今まで当たり前だったことができないという状況に対するストレスは相当溜まっているのだと実感した。
- ・商工会議所青年部では、コロナの影響により何も活動が出来ないという状況が続いたため、みんなで『コロナ禍でもできること』を考え、活動している。
- ・観光委員会では、『コアな会津』をテーマに動画を撮影しており、11月には配信予定。
- ・ビジネス交流委員会では、事業所紹介の動画を作成しており、すでに『会津慶山焼』の紹介動画を配信し、次作は11月に配信予定。
- ・今年度は、会津児童園と協議しながら、児童園への寄付の仕組みを作った。また、会議所青年部、同友会、青年会議所で協力し、11月に会津大学及び短大へカップラーメンの寄付を行い、児童・生徒・学生を支援している。
- ・今後、商工会議所の親会と共同開催で、デジタル通貨についての勉強会を開催予定。
- ・商工会議所では、管内事業所の売上促進協力として「ふるさと会津定期便」事業を実施した。9月～12月まで毎月定期的に会津の特産品を販売発送している。
- ・法律、労務、経営、金融、事業承継などの経営支援については、引き続き無料相談会を開催している。最近では、金融（融資）、労務相談は落ち着いており、経営相談と補助金相談が多くなっている。

- ・(前回未来会議にて共有のあった)『奥会津かねやま福業協同組合』について、現在では4名が所属し、様々な事業所で派遣として働いている。
- ・県民割の開始により、旅館等で人手不足となっており、旅館が協同組合に加入して派遣してもらっている。
- ・登録者の中には、首都圏との2地域居住を実施している方も居り、お互いにウィンウィンの関係を築くことができている。
- ・現在、同様の組合の立ち上げを只見と喜多方でも検討している。

■企業の課題などについて

- ・緊急事態宣言中に休業を余技なくされた業種については、コロナ以前の経済状況に戻ったとしても、業務を実施する人材が不足する可能性が高まっている。
- ・県外企業との協働をしようにもコロナウイルス感染症というリスクがある中ではなかなか連携が取りにくい状況になっている。→ 自地域、自企業のみでは人材を確保しきれない。
- ・特に県外企業と連携する場合、互いの地域のコロナウイルス感染症の状況により足踏みしてしまうことが多いが、近くに対応できる企業がない、もしくはつながりがなく、どこにお願いしていいかわからない。
- ・コロナウイルス感染症拡大の状況により、できること、できないことが日々変わってしまう。従来の仕事だけでなく、今の状況下でも継続的に取り組める新しい仕事づくり、業種・業態の異なるビジネスに挑戦できる対策が必要である。
- ・人材育成、人材確保については、若年者離職についても課題と考える。
- ・せっかく就職した若者が職場定着するような仕組みも大事だと思うので、そのためには、企業の魅力向上も重要。
- ・以前にテレビで見た事例で、建設業の企業で、技術を持った70歳・80歳の方を新規雇用し、見習い的人の専門講師として就業してもらうという取り組みを行っていた。若い職員は、しっかりと技術を教えてもらうことができ、また、聞きやすい環境にあるため、早く技術を身につけることができ、高齢者の方もプロ意識を持ち再雇用されることのできる良い取り組みだと感じた。
- ・事業承継は地域として大きな課題だと思う。最近喜多方市の老舗ラーメン店が閉店となったが、そういった人気店を残していけないことは残念。
- ・人材確保、育成のために、まずは企業の魅力向上も重要だと思う。選ばれる企業になる必要がある。
- ・今後の企業の未来を考えると、やはり女性の活躍は大切だと思う。
- ・女性は子どもを産むと社会復帰しにくい、また、会社によってはパートになってしまうという話も聞く。
- ・女性の社会進出を助ける環境づくりについて、今後、協議してみたい。
⇒今回、出してもらった企業の課題については、事務局で個別にコアメンバーと協議し、今後のテーマなどとして検討していく。

【令和3年度取組の進捗状況について】

別添資料に基づき事務局より説明

(意見等)

- ・交流会、勉強会についてはターゲットの設定が大事。また、交流会については、所属に関わらず、広く募集し、色々な方に参加してもらった方が楽しいと思う。
- ・葵高校にアンケートを取り、地域の中小企業や大学と関わることで、考え方にどのような変化が起きるかを見ていこうと考えている。

現状：200人中4割が地元就職を考えている。

200人のうち将来希望する職種は、公務員・教育関連・福祉関連などが半数、民間企業が半数である。

地元就職を考えている4割のうち、将来希望する職種は、公務員・教育関連・福祉関連などで7割を占める。

⇒<考察>

- ・高校生に地域の企業のイメージがない。知られていないのではないかな。
- ・未来会議の職業・就業に向けた取組みは続けるべきと考える。いつかは社会に出ることになるので、どの段階でも意識づけは必要。
- ・就業体験、ものづくり体験、現場視察、講演会など、小、中、高校生それぞれの成長過程で何かに触れることが記憶となり、経験となる。
- ・個人的には若いうちにもっと見識を広げて欲しいと思っている。高校生までは地域で過ごす時間が多く、物事の見方が狭くなってしまうため、グローバル的な取組みを考えていきたい。
- ・高校生との交流も良いが、進路の決定などを考えると、中学生のうちに実施した方が、効果的な面もあると思う。
- ・商工会議所の青年部では、ジュニアエコノミーカレッジを通じて、商売を実体験してもらってきており、実際に参加した児童が、会津で働いているという話も耳にする。

⇒2つの取組を実施、必要に応じコアメンバーに協力いただくことで了承。

令和3年度
会津若松市中小企業・小規模企業未来会議 コアメンバー及び出席者名簿

令和3年10月現在

所属・企業名	役職	氏名（敬称略）	備考	第1回 出欠
宮城大学 事業構想学群	准教授・博士	青木 孝弘		出
(有)カナダ工業製作所	専務取締役	金田 卓也	会津若松商工会議所 推薦	出
(株)安西商会		安西 秀幸		欠
(株)三義漆器店	代表取締役	曾根 佳弘		欠
(株)アクトイン	取締役	松浦 久美	県中小企業家同友会 会津支部 推薦	出
TAKLAM	代表	遠藤 和輝	公益財団法人 会津青年会議所 推薦	欠
会津若松商工会議所	企業振興課長	吉田 浩		出
あいづ商工会	事務局長	白川 浩二		出
福島県中小企業団体中央会 会津事務所	所長	堀 和弘		欠
会津信用金庫	本店営業部長	渡部 勝敏		出
会津商工信用組合	融資部・地域支援課 次長 専務理事	藤巻 正義 齋藤 久夫		出
会津若松市観光商工部商工課	課長	長谷川 陽一		出